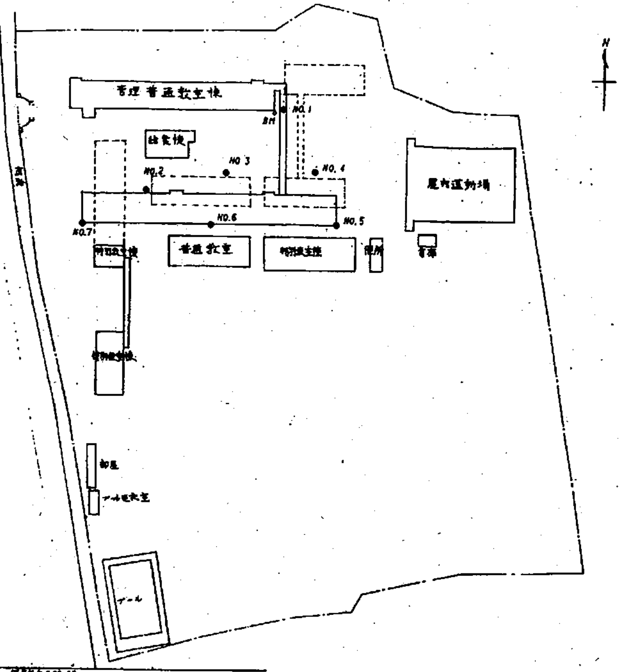
参考資料1

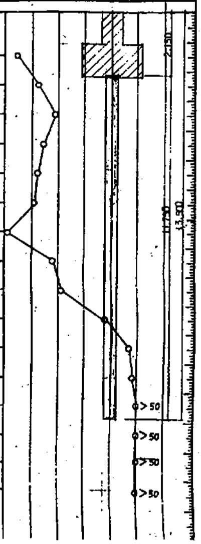


地盤標高 (BM±0.00より) −0.12 m ボーリング深さ 16.00 m NO.2.

標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度 相対稠度
	0.30	0.30	褐灰		表土	表土, 軟かい	
	1.20	0.90	黄灰		砂質粘土	粘着力強く軟い.	軟かい
	4.00	2.80	黄灰	▽ 1.72	砂礫	礫はφ5~30mmの硬質細礫が主体をなすが所々にφ80mm大も含む. 礫間はゆるく全般に崩壊多い.	中位
	7.10	3.10	暗灰		細砂	所々に少量のシルト分を含有する. 貝殻微片の混入がわずかに見られる.	
	8.20	1.10	黒灰		シルト	腐植物を微量混入. 非常に軟弱である.	非常に軟かい
	9.70	1.50	青灰		砂礫	礫はφ5~20mmが主で所々にφ40mm前後を含む. 礫分多く崩壊有り.	中位
	16.00	6.30	青灰		結晶片岩 (中風化)	9.70~13.50m間は風化が進み礫混り固結粘土状を呈す. 13.10m付近より下部は風化も少なく岩組織を残し安定した軟岩状態を呈している.	密な 非常に密な

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	実測N値	補正N値
1.15–1.45	1	2	1	4	
2.15–2.45	4	4	4	12	
3.15–3.45	6	7	6	19	
4.15–4.45	6	5	3	14	
5.15–5.45	4	4	4	12	
6.15–6.45	4	3	4	11	
7.15–7.50				1/35	
8.15–8.45	3	6	9	18	
9.15–9.45	7	8	6	21	
10.15–10.45	10	18	10	38	
11.15–11.45	12	14	20	46	
12.15–12.45	14	14	20	48	
13.15–13.43	18	18	14	50/28	
14.15–14.40	18	20	12	50/25	
15.15–15.33	21	29		50/18	
16.15–16.25	50			50/10	

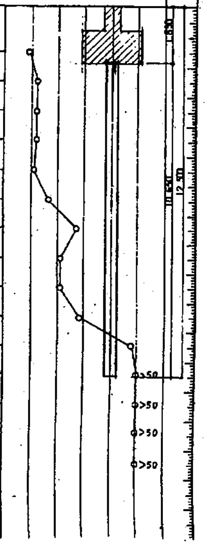


地盤標高 (BM±0.00より) −0.05 m ボーリング深さ 15.00 m NO.1.

標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度 相対稠度
	0.30	0.30	茶灰		表土	[illegible]	
	1.00	0.70	黄灰		砂質粘土	粘着力大で軟かい	ゆるい
	3.00	2.00	茶黄	▽ 1.45	砂礫	礫φ5~30mmの硬礫を多く混え崩壊がある.	中位
	6.80	3.80	暗灰		細砂	所々に貝殻片を含む. シルト分も微量に混入している. 砂分は細粒な均等砂である.	
	10.70	3.90	青灰		砂礫	礫はφ5~20mm程が主体をなし所々にφ40mmの中岩亜円礫を混入する. 下部には粘土分を少量含む.	
	15.00	4.30	茶灰		結晶片岩 (中風化)	風化の影響により粘土混り礫状を示す部分と礫混り固結粘土状を呈する部分とがある. 硬い部分は礫状に採取される.	非常に密な

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	実測N値	補正N値
1.15–1.45	3	2	4	9	
2.15–2.45	3	4	5	12	
3.15–3.45	4	3	5	12	
4.15–4.45	4	4	4	12	
5.15–5.45	4	3	4	11	
6.15–6.45	4	4	4	16	
7.15–7.45	7	8	12	27	
8.15–8.45	7	6	8	21	
9.15–9.45	8	7	6	21	
10.15–10.45	6	7	6	19	
11.15–11.45	25	13	10	48	
12.15–12.35	25	25		50/20	
13.15–13.42	18	18	14	50/27	
14.15–14.36	22	26	2	50/21	
15.15–15.41	19	21	10	50/26	

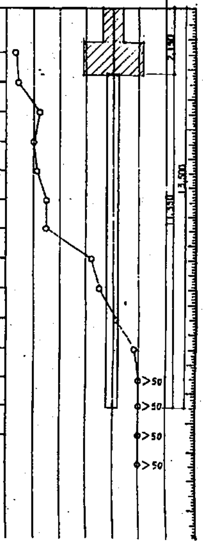


地盤標高 (BM±0.00より) −0.21 m ボーリング深さ 15.00 m NO 3

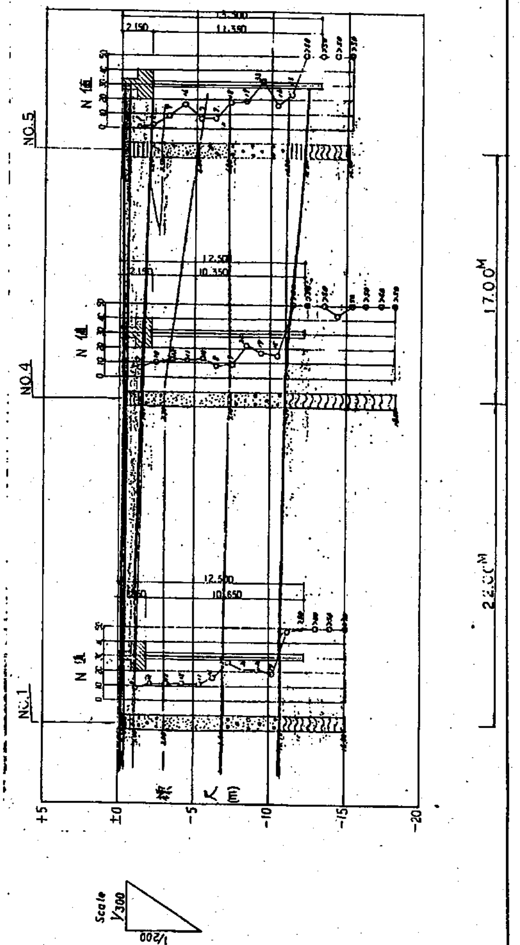
標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度 相対稠度
	0.10	0.10					
	1.70	1.60	黄灰		砂質粘土	0.10m~0.40mは表土で砂質土. 粘土は粘着力強いが軟質.	軟かい
	2.20	0.50	暗灰	▽ 1.55	砂質シルト	腐植物微量含み, 軟かい.	
	4.00	1.80	暗灰		砂礫	礫φ5~40mmの硬礫を多く混入. 礫間はゆるく崩壊する.	中位
	7.00	3.00	暗灰		細砂	均等粒子よりなる. 微量のシルト分が貝殻小片を含有.	
	9.70	2.70	青灰		砂礫	φ10~30mm程の礫が主体をなすが, 所々に径80mm前後のものもある. 礫は主に硬質の亜円礫. しまっている.	密な
	10.60	0.90	黄灰		固結粘土	風化粘土で, 未風化の小礫を含む.	
	15.00	4.40	緑灰		結晶片岩 (中風化)	上部は風化によりやや軟化しているが下部になれば風化も少なく硬くなりコアーは5cm程の礫状コアーとして残留.	非常に密な

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	実測N値	補正N値
1.15–1.45	1	1	1	3	
2.15–2.45	1	2	1	4	
3.15–3.45	4	3	5	12	
4.15–4.45	3	3	4	10	
5.15–5.45	3	3	5	11	
6.15–6.45	4	5	5	14	
7.15–7.45	5	4	5	14	
8.15–8.45	7	10	15	32	
9.15–9.45	8	11	16	35	
10.15–10.45	11	14	16	41	
11.15–11.45	16	18	14	48	
12.15–12.43	16	18	16	50/28	
13.15–13.41	15	18	17	50/26	
14.15–14.40	18	20	12	50/25	
15.15–15.43	11	23	16	50/28	



凡例
- ■ コンクリート 表土
- ▨ 砂質粘土
- ▨ 上部砂礫
- ▨ 砂質シルト
- ▨ シルト(混り細砂)
- ▨ シルト
- ▨ 下部砂礫
- ☰ 固結粘土
- ■ 結晶片岩
- 回 是枝内
- ☑ 廃(旧)



(有)河野浩建築事務所
大分市中島西一丁目1番42号マーベリビル
TEL (32) 3446・(31) 2983

1級建築士事務所 大分県知事登録	1級建築士登録 第11779号	承認	担当	製図	設計 年 月 日	
80−1395	河野 浩	河野	城	田尻	1984年 7月 日	

課長	課長補佐	課長補佐	係長	主任	担当	61年7月 日

大分市役所 土木建築部 建築課

工事名	工事設計図	図面名	縮尺	図面番号
大分市立坂ノ市中学校々舎増改築		ボーリング柱状図		−89 枚の内

地盤標高 （GL 8Ⅱ±0.00より） −0.24 m　ボーリング深さ 18.00 m　NO.4.

深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度・相対稠度
0.20	0.20	[illegible]		[illegible]	表土で軟らかい。	
1.30	1.10	黄灰	▽1.30	砂質粘土	軟かい、粘着力強い	軟かい
2.70	1.40	暗灰		砂礫	φ30mm以下の礫を多く混え、ゆるい。孔内崩壊多い。	中位
7.10	4.40	黒灰		細砂	貝殻片を少量混入。砂分は粒径的には細粒な均等な砂である。構成はやゝゆるい。	ゆるい
10.70	3.60	黄灰		砂礫	礫はφ10~60mmの範囲の石英及び片岩の亜角礫で混入量多い。下部には粘土分を少量含む	中位
18.00	7.30	黄灰		結晶片岩 (中層風化)	全般的には中層風化により粘土混り礫状を呈する部分が多い。所々に強風化により礫混り固結粘土状を呈する部分があり、その部分はやゝ軟化している。	非常に密な ~ 密な ~ 非常に密な

深度 m	10cm	20cm	30cm	実測N値
1.15~1.45	2	2	3	7
2.15~2.45	3	4	3	10
3.15~3.45	3	5	4	12
4.15~4.45	4	3	4	11
5.15~5.45	5	4	4	13
6.15~6.45	2	3	3	8
7.15~7.45	2	3	4	9
8.15~8.45	9	7	6	22
9.15~9.45	7	5	5	17
10.15~10.45	5	5	5	15
11.15~11.44	10	17	23/9	50/29
12.15~12.40	11	17	22/5	50/25
13.13~13.42	21	17	12/9	50/29
14.15~14.45	11	15	17	43
15.15~15.45	11	16	23	50
16.15~16.40	14	15	21/5	50/25
17.15~17.36	16	27	7/1	50/21
18.15~18.41	28	22/6		50/26

LLT: 2.150　10.350　12.500

地盤標高 （GL 8Ⅱ±0.00より） −0.12 m　ボーリング深さ 17.00 m　NO.6.

深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度・相対稠度
0.20	0.30	茶灰		砂質粘土	表土	
0.80	0.60	黄茶灰		粘土	粘性目大である。	軟かい
3.70	2.90	黄茶灰 ~ 暗茶灰	▽1.36	砂礫	礫はφ10~30mm程度の石英、及び片岩の亜角礫を多く含む。2.20m付近より礫分やゝ少なくなる。孔内崩壊多い。	中位 ~ ゆるい
6.70	3.00	暗灰		シルト混り細砂	3.70~5.00m間、少量のシルト分を含む。5.00mよりシルト分を多く含むようになる。砂分の粒は極細小粒。	
9.60	2.90	暗灰		砂礫	φ10~30mmの石英、片岩の亜角礫を多く混入。礫間には粘土分を少量含有する。	中位
10.20	0.60	青茶灰		固結粘土	低固結粒、小礫を点在。	
17.00	6.80	暗緑灰		結晶片岩 (中層風化)	10.20~13.50m間は強度の風化により礫混り固結粘土状を示す部分が多い。13.50mより下部になれば、風化の程度は中層となり岩組織が明確に残す部分が多い。総体的に安定している。	密な 非常に密な

深度 m	10cm	20cm	30cm	実測N値
1.15~1.45	2	2	2	6
2.15~2.45	3	3	4	10
3.15~3.45	5	4	5	14
4.15~4.45	4	5	6	15
5.15~5.45	2	2	4	8
6.15~6.45	2	2	2	6
7.15~7.45	5	6	5	16
8.15~8.45	5	6	8	19
9.15~9.45	5	8	11	24
10.15~10.45	2	6	10	16
11.15~11.45	8	10	13	31
12.15~12.45	11	15	18	44
13.15~13.45	9	13	16	38
14.15~14.38	15	20	11/3	50/23
15.15~15.38	15	20	15/3	50/23
16.15~16.38	31	19/10		50/20
17.15~17.30	33	17/5		50/15

LLT: 2.150　13.350　15.500

地盤標高 （GL 8Ⅱ±0.00より） −0.14 m　ボーリング深さ 15.00 m　NO.5.

深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度・相対稠度
0.40	0.40	茶灰		細砂混り粘土	表土	
1.80	1.40	黄茶灰	▽1.70	粘土	非常に軟弱な粘土であるが、粘着力は大	非常に軟かい
2.50	0.70	暗灰		砂混りシルト	腐植物を混え軟質。	非常にゆるい
5.00	2.50	暗青灰		粗砂	シルト分少量含む。粒径的には中粒で、礫分を少量混入する。	ゆるい ~ 中位
6.90	1.90	暗灰		シルト混り細砂	シルトを少量含む。砂分は粒径的には極小いもの。	ゆるい
10.80	3.90	暗青灰		砂礫	礫はφ10~30mmを多く混入。9.00mより下部にはφ60mm大も含まれている。部分的に少量の粘土を含有。	中位
12.00	1.20	茶褐灰		礫混り固結粘土	風化粘土で硬い。礫はφ10~20mm程度	
15.00	3.00	暗緑灰		結晶片岩 (中層風化)	石英脈等を含み、いく分風化を受けているが、全体的には安定した岩層である。	非常に密な

深度 m	10cm	20cm	30cm	実測N値
1.15~1.51				1/46
2.15~2.45	1/11	1/11	1	3/33
3.15~3.45	3	3	3	9
4.15~4.45	6	6	4	16
5.15~5.45	2	2	3	7
6.15~6.45	2	2	3	7
7.15~7.45	6	6	6	18
8.15~8.45	5	6	8	19
9.15~9.45	7	11	15	33
10.15~10.45	6	5	5	16
11.15~11.45	5	7	11	23
12.15~12.39	18	19	13/4	50/24
13.15~13.36	21	26	3/1	50/21
14.15~14.32	33	17/7		50/17
15.15~15.27	39	11/2		50/12

LLT: 2.150　11.350　13.500

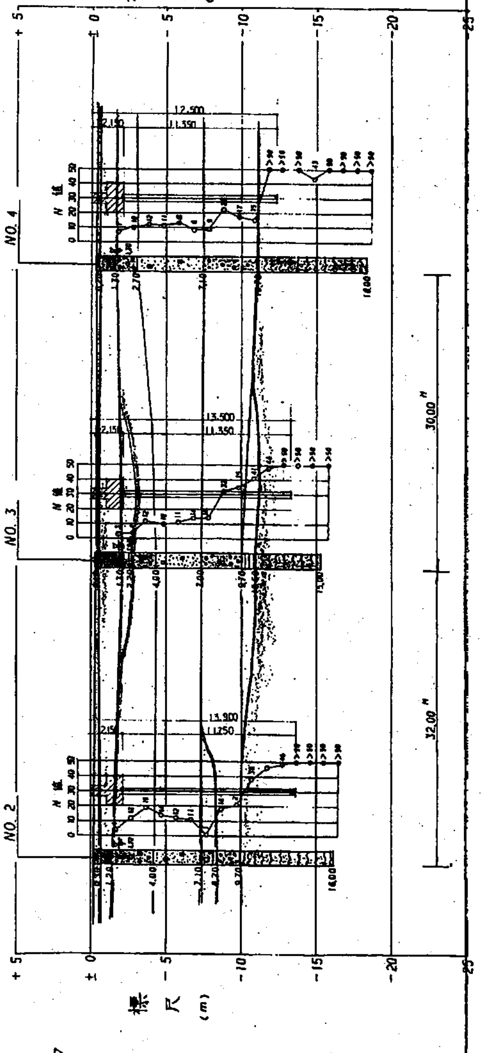
地盤標高 （GL 8Ⅱ±0.00より） 0.28 m　ボーリング深さ 18.00 m　NO.7

深度 (m)	層厚 (m)	色調	孔内水位	地質名	観察	相対密度・相対稠度
0.20	0.20			コンクリート	敷バラス	
1.50	1.30	黄茶灰		粘土	粘着力強い。φ10~20mmの小礫点在	軟かい
4.00	2.50	茶灰	▽1.65	砂礫	1.50~2.00m間は礫分少ない。混入礫はφ10~40mm程の亜円礫が主で、全般に崩壊多い。	ゆるい ~ 中位
7.40	3.40	暗灰		シルト混り細砂	4.00~6.00m間には少量のシルト分を含む。6.00mより下部はシルト分が多くなり軟質となる。	
8.60	1.20	黒灰		シルト	粘性は中位、腐植物を含み軟い、小礫を含む	非常にゆるい
10.20	1.60	暗青灰		砂礫	礫はφ10~40mm程度の石英、片岩の亜角礫、粘土を少量含む	中位
11.10	0.90	青灰		固結粘土	風化粘土で、小礫を含み、粘着力は大である。	
18.00	6.90	暗緑灰		結晶片岩 (中層風化)	11.10~14.20mまでは部分的に風化が進み礫混り固結粘土状を示している。14.20~18.00m間亀裂が多く、一部風化し、砂礫状を示す部分がある。総体的に見ると一部に風化があるものの接した岩組織を呈している。	密な 非常に密な

深度 m	10cm	20cm	30cm	実測N値
1.15~1.45	2	2	2	6
2.15~2.45	6	7	7	20
3.15~3.45	2	2	4	8
4.15~4.45	3	4	6	13
5.15~5.45	3	4	4	11
6.15~6.45	2	2	2	6
7.15~7.45	2	2	5	9
8.15~8.45	1	1	2	4
9.15~9.45	6	8	13	27
10.15~10.45	5	5	7	17
11.15~11.45	8	9	13	30
12.15~12.45	11	15	18	44
13.15~13.36	17	24	9/1	50/21
14.15~14.45	8	12	13	33
15.15~15.38	21	27/8		50/18
16.15~16.39	14	21	15/4	50/24
17.15~17.35	23	27/10		50/20
18.15~18.30	26	24/5		50/15

LLT: 2.150　14.350　16.500

凡例
- ■ 表土
- ■ 砂質粘土
- ▨ 砂質シルト
- ▨ 上部砂礫
- ▨ 細砂
- ▨ シルト
- ▨ 下部砂礫
- ▤ 固結粘土
- ■ 結晶片岩
- ☐ 貝殻片
- ☐ 腐植物



Scale 1/300 1/200

大分市役所 土木建築部 建築課	59年7月 日

(有)河野浩建築事務所	1級建築士事務所 大分県知事登録	1級建築士登録 第11779号	承認	担当	製図	設計年月日
大分市中島西一丁目8番42号マーベリビル TEL (?)	80-1395	河野 浩	河野	城	田尻	1984年 7月 日

工事名	工事設計図	図面名	縮尺	図面番号
		ボーリング柱状図		−90 枚の内